

## 第5回神崎市水源地域振興対策検討委員会

開催日時	令和3年11月 8日(月) 13:00～14:20	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員	<p>24名中20名出席</p> <p>佐賀大学 教授 五十嵐 勉 委員長</p> <p>脊振町区長会 会長 森崎 三善 副委員長</p> <p>西九州大学 社会福祉学科 教授 井本 浩之 委員</p> <p>城原川ダム建設対策協議会 副会長 實松 英治 委員</p> <p>城原川ダム仁比山地区委員会 会長 平石 與志文 委員</p> <p>神埼町区長会 会長 宮島 大作 委員</p> <p>千代田町区長会 会長 船津 清 委員</p> <p>J Aさが神埼地区女性部脊振支部 支部長 本村 和子 委員</p> <p>脊振育友会 会長 森崎 俊一 委員</p> <p>神崎市観光協会 会長 島 富士男 委員</p> <p>高取山公園 農産物出荷部会 会長 倉谷 清子 委員</p> <p>特定非営利活動法人 CSOかんだき 副理事長 吉原 俊樹 委員</p> <p>特定非営利活動法人 森林をつくろう 理事長 佐藤 和歌子 委員</p> <p>脊振を愛する会 代表 真島 久光 委員</p> <p>公募委員 廣瀧 千鶴子 委員</p> <p>国土交通省 佐賀河川事務所 副所長 中山 雅文 委員</p> <p>佐賀県 城原川ダム等対策室 室長 仁戸田 幸司 委員</p> <p>神崎市 産業建設部 部長 嶋 耕二 委員</p> <p>神崎市 総務企画部 部長 中島 勝利 委員</p> <p>神崎市 脊振支所 支所長 吉田 稔 委員</p>
	傍聴者	2名

### 議事録

開会 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回神崎市水源地域振興対策検討委員会の開会に先立ち、事務局の司会により、当委員会の傍聴及びホームページ等での議事録（発言者匿名、発言内容の要旨）の公開について、委員より了解を得た。</li> <li>・傍聴者について紹介した。</li> <li>・本委員会は定刻に開会した。</li> </ul>
委嘱状の交付 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松本市長から令和3年度に就任した委員へ委嘱状を交付した。</li> </ul>
市長あいさつ (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松本市長より挨拶を行った。</li> </ul> <p>&lt;以下、挨拶の内容&gt;</p>

	<p>本日、新たに委嘱状を交付した委員の方に、大変ご迷惑を掛けることとなるが、よろしくお願ひしたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症については、佐賀県内で感染者ゼロという日がだいぶ増えてきており、非常にありがたい話である。第6波が来ないように願っている。</p> <p>また、国や県によって、城原川ダムについて進めていただいております、非常にありがたいと思う。地域の治水対策や災害防止をよろしくお願ひしたい。ダムの進捗と合わせながら、地域振興についても進めていき、上流域も下流域も良い方向に向かうようになれば、非常にありがたい話である。</p> <p>佐賀大学の五十嵐先生については、先月立ち上げた「神崎市水の郷再生市民会議」の会長も務めていただいている。以前、神埼町が水の郷百選に選ばれたときには、馬場川周辺にヒゴイがたくさん棲んでいた。しかし、水量の減少等により、現在はヒゴイの姿が見られない状態となっているが、当該会議は以前あったような、水に親しみ、潤いある環境づくりを目指して立ち上げられた。</p> <p>本委員会の委員の方も、多くの方が市民会議の委員を務められているが、皆様の意見を賜りながら、城原川ダムの上下流域で水を大切にしまちづくりを進めていくことを踏まえ、ダムの整備や河川整備が進められたらと思う。</p> <p>近年のような尋常ではない雨が脊振に降った場合を考えると、下流域のために早く城原川ダムが欲しいところである。現在、市の南部には野越しがあるが、堤防を守ることができても人を守れなければ大変なことになる。野越しの意味というものをしっかり考えながら、より良い安全対策を考えていきたい。</p> <p>今後とも、皆様と共に、地域の発展や振興のために頑張りたいと思っている。また、皆様のご英知をいただきながら、本委員会を進めて行きたいと考えている。</p> <p>まずは、皆様の健康第一に本委員会を進めていただくことをお願ひして、挨拶に代えたいと思う。</p>
<p>委員紹介 (事務局)</p>	<p>・資料1に基づき、令和3年度新たに就任した委員5名を紹介した。</p>
<p>配布資料の確認 (事務局)</p>	<p>・配布資料を確認した。</p> <p>[配布資料]</p> <p>資料－1：神崎市水源地域振興対策検討委員名簿</p> <p>資料－2：神崎市水源地域振興計画（構想・概要版）</p> <p>資料－3：神崎市水源地域振興計画（素案）策定までのスケジュール</p> <p>資料－4：神崎市水源地域振興計画（素案）の目次構成</p> <p>資料－5：城原川ダム事業説明資料</p>
<p>委員長あいさつ (委員長)</p>	<p>・五十嵐委員長より挨拶を行った。</p> <p>&lt;以下、挨拶の内容&gt;</p> <p>今回から初めて委員に就任された方、引き続きの方、この事業や委員会の計画作りについて、温度差があるかと思う。今回は、今年度の第1回目の委員会、通算で</p>

	<p>5回目の委員会になる。この委員会においては、これまでこの委員会がどういったことに取り組んできたのか、今後どのように進めていくのか、そういったことについてしっかりと情報を共有したいと考えている。</p> <p>本来、この第5回委員会は、今年度のもう少し早い時期に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の第5波の影響もあり、本日開催するに至っている。そのため、当初の計画作りのスケジュールと比較し、だいぶ遅れてしまっている。このような状況下で、今後のダム建設事業との関連性も踏まえ、今年度末の3月までに、この委員会として何を行うのかについても、後ほど説明させていただきたい。</p> <p>短時間にはなるが、円滑なご審議にご協力をお願いしたい。</p>
開催要件 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の会議は、当会議の開催要件である「神崎市水源地域対策検討委員会設置要綱第6条第2項」の規定を満たしているため、当会議が成立していることを報告した。</li> <li>・開催要件の確認後、議事進行を事務局から五十嵐委員長に引き継いだ。</li> </ul>
議題(1) 城原川ダム事業 について (国土交通省)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料5に基づき、城原川ダム事業について説明した。</li> </ul>
(委員長)	事務局からの説明内容に質問・意見はあるか。
(委員)	<p>トンネルの入口から出口までの全長を示してほしい。</p> <p>今年8月の大雨で脊振町町内に山崩れが多数発生した。本線が通行できなくなると、危険箇所の多い倉谷線を通行せざるを得なくなるため、他にバイパスがあると助かる。ダム建設による工事用道路を活かすことはできないのかも今後検討してほしい。</p> <p>国としては、これらについてどのように考えているか。</p>
(国土交通省)	<p>道路に関しては、まずはメインとなる県道について理解いただくために、説明を行っているところである。また、市道として必要な部分は市と協議しているため、地元から了解を得て、公表できる段階になったら報告したい。</p> <p>道路は地域振興の基盤になるものであると認識しているため、どのように振興計画を作っていくかをしっかり議論していきたい。</p>
(委員)	<p>初めて道路構想の図面を見たが、この計画通りに進んでいくということか。また、道路工事は何年ぐらいの計画になるのか。</p> <p>現在、飯町の交差点から高速道路までの三瀬神埼線における道路改良計画で、歩道設置案が示されている。工事開始による車の通行量や土砂の搬入量や搬出量が分れば示していただきたい。</p>
(国土交通省)	<p>ルートに関しては、仁比山地区へ十分な説明ができていない。付替道路のための安全なルートや勾配等を考慮する必要があるため、現在、案を詰めている状況である。</p> <p>地域の方々にしっかりとした説明を行った上で確定していきたい。</p> <p>工事期間については、用地買収が必須であるため、何年かかるかはまだ分からない。</p> <p>目安として、トンネル工事は2年半～3年、橋梁は規模によって異なるが、上部工</p>

	<p>だけでも1年以上はかかると思ってもらってよい。道路となると、結構な年数がかかると想定されるが、可能な限り、工事期間の短縮を試みたい。</p> <p>また、ダンプ等の通行量については、道路の切り替え時には極端に増加することはないが、ダム本体の工事となると、それなりに台数は増加する。しかし、基本的には付替道路ではなく、工事用道路を使用することになる。一方、ダムサイトへの資材搬入等のためには、付替道路を使用するため、通勤や帰宅時にダンプの移動が重なることは想定される。</p>
(委員長)	<p>しかるべき時期に地元説明会を開催するということにご理解いただきたい。</p> <p>本委員会は、工事に関する問題を議論する場ではない。付替道路が出来る前提で地域振興をどのように図れるかを討議する場としてほしい。</p>
議題(2) 令和2年度までの検討結果について (委託業者)	<p>・資料2に基づき、令和2年度までの検討結果について説明した。</p>
(委員長)	<p>事務局からの説明内容に質問・意見はあるか。</p>
(委員)	<p>方針2の3行目「神埼市内・周辺自治体と連携した観光コースの構築やまちづくり」の“まちづくり”が漠然としている。“市民協働活動によるまちづくり”にしてはどうか。</p> <p>方針5の5行目「小・中学校の学校教育及び生涯学習等を活用し」に“こどもクラブ”や“公民館活動”という言葉を入れた方が具体的な動きに繋がっていくのではないか。</p> <p>方針一共通の2行目及び6行目「多様な主体の参画と協働」の“協働”を“協働活動”としてほしい。また、3行目「将来像の実現のためには、新たな担い手の確保や組織作り」について、誰が持続させていくかという持続可能性をしっかりと打ち出した方が良いのではないか。</p>
(委員長)	<p>方針2の“市民協働によるまちづくり”について、事務局はどう考えているか。</p>
(事務局)	<p>円滑な協働は重要であるため、方針2には“市民協働”という表現を取り入れるような考えで進めていきたい。</p>
(委員長)	<p>方針一共通にも、市民団体活動や行政などの多様な団体が考えられる。市民協働を加えることにする。</p> <p>方針5について、“生涯学習”は、社会教育法に基づいて、一般的には公民館活動として行われるため、“生涯学習”の中には公民館活動が含まれていること、また、子どもクラブ等の課外活動や正課の授業外での活動も、小中学校の学校教育の関連で行われるものをご理解いただきたい。</p> <p>方針一共通の「多様な主体の参画と協働」は、“協働”を“協働活動”とする。また、「新たな担い手の確保や組織作り」は大変重要である。本委員会は計画を作る委員会であるが、策定した計画を推進するための組織を作る必要もある。推進組織につ</p>

	いては、次回の委員会で検討するという事によいか。
(事務局)	次回の委員会で議題として検討する。
(委員長)	次回の委員会で具体的な組織のイメージを得る前提で、方針－共通は原文ままとする。
(委員)	地域振興計画の推進体制のところ、組織確立といった言葉まで入れないと実現性に欠ける。“地域振興計画の推進のための組織体制の構築”というように、明確に記載しないと持続していかないのではないかと強く感じている。
(委員長)	方針－共通の7行目に“計画の推進に係る自律的かつ持続可能な推進体制（水源地域活性化推進会議（仮称））”等という文言を追記して、具体的に自立的かつ持続可能な推進体制について表記する。推進体制については、次回委員会で審議するため、それを受けて推進組織の仮称等を入れる方向で検討する。
(委員)	方針3「農・特産品の魅力創出、新たな魅力の発掘・開発」について、2次加工・3次加工、学校への供給などの利活用があれば良いと考えているが、当該方針にはこのような意味が含まれているのか。
(委員長)	ここでは、「多様な農産物・特産品があり、複数の直売所にて販売されています。さらなる販売促進に向け、農・特産品の地産地消の発展的な展開やブランド化を図ります。」にとどまっているため、通常の商品ルートには乗らない産物の活用も踏まえ、“多様な地域資源の6次産業化を含む活用”を入れる。事務局、これについて、このような対応で良いか。
(事務局)	了解。
(委員長)	私から気になる点がある。方針1の2行目「水源涵養林の間伐等による適切な管理」について、主伐が進んでいない、また人工林の循環を造らなければならないという課題があるが、間伐だけにとどめてよいか。主伐材の経済的な利益に繋がる循環も必要になるのではないか。
(委員)	一様に森林管理と言ってしまうと、それは当たり前だとか、それこそが環境保全だということ勘違いされやすいため、委員長が提案する文言は入れて良いと思う。
(委員長)	方針2には、主伐も含めた“林業の振興”という文言を入れる。 当該委員会では、時機に湛水区域の荒廃地化を防ぐ取組が必要となる。ダム建設により、構造物だけでなく樹林・樹木も撤去した風景が広がることになり、そこを荒れ地のまま放置しないためにも“湛水区域の荒廃地化を防ぐ取組”という文言を入れることにする。今後、湛水区域の利活用についても考えていかなければならない。他に意見がなければ、この6つの方針に基づいて、1月の住民ワークショップで住民の意見を集めたいと思う。その後、3月の委員会で方針を再確認していただく。
(委員)	世の中ではSDGsが動いているが、基本方針についても、何らかの形で落とし込み、打ち出していくのが良いのではないか。
(委員長)	SDGsは大変重要であり、「地域の将来像」も“持続可能な”というキーワードを盛り込むことではSDGsを意識している。方針1の環境保全に関するところでは、目標15：陸の豊かさ、その他、目標13：気候変動、目標11：住み続けられるまちづくり

	<p>くり等、この基本計画ではSDGsの重要な目標に関連するものがほぼ網羅されている。</p> <p>住民ワークショップでは、SDGsについて説明しきれない。そのため、計画書の具体化は次年度になるが、SDGsとの関連を示唆したりロゴを入れたりといったことを検討していく。</p> <p>上位計画（総合計画等）ではSDGsに触れている。これらと整合を図りながら、本計画へのSDGsの落とし込み方について事務局で検討していきたい。</p>
<p>議題（3） 神崎市水源地域振興計画(素案)策定までのスケジュールについて (事務局)</p>	<p>・資料3に基づき、神崎市水源地域振興計画（素案）策定までのスケジュールについて説明した。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>この後、庁内調整が始まるが、これまでの住民ワークショップあるいはこの検討委員会で出てきた具体的な施策の項目について、実施の可否まで踏み込まないという認識で良いか。それとも、次のワークショップでこれまでと同じような意見が出てくる可能性があるが、そのときに既に庁内で調整済みだというような姿勢で臨むということか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>庁内調整ではこれまでいただいた意見の振るい分けは行わない。いただいた意見は尊重して考えていく。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>計画の内容や項目によっては、庁内で直接的にどの部署が担当するか、部署間の連携は必要かというような調整を検討するというところで良いか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>そのとおり。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>次年度の水源地域の振興に係る予算案はどうなっているのか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>次年度の予算については、検討委員会の運営に係るものであると考えている。具体的な内容はこれから詰めていく。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>この検討委員会は次年度まで継続するため、それに係る予算を確保するところまで確認させてもらった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が大きく拡大しない限り、1月末頃に住民ワークショップを開催する。これは非常に重要なワークショップとなるため、事務局は早めに準備を進めてほしい。</p>
<p>議題（4） 神崎市水源地域振興計画(素案)の目次構成について (委託業者)</p>	<p>・資料4に基づき、神崎市水源地域振興計画（素案）の目次構成について説明した。</p>

(委員長)	事務局からの説明内容に質問・意見はあるか。
(委員)	(意見なし)
(委員長)	<p>今年度は新型コロナウイルス感染症の最中であったため、先例地視察は実施できなかったが、他地域の事例について本委員会で情報提供したいと考えている。次年度、他地域への視察の検討も必要ではないかと感じている。</p> <p>流水型ダムにおいて、水源地域の活性化や振興計画を検討することは、全国で初の事例になるのではないかと。今後、流水型ダムが他地域で建設される際に、私たちの取組や振興計画が参考にされるかもしれない。そういう意味で、本委員会は大変重要な委員会になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての議事を終了し、進行を五十嵐委員長から事務局に引き継いだ。</li> </ul>
閉会 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回委員会は3月の開催を予定している。</li> <li>・事務局より閉会の挨拶を行った。</li> <li>・第5回神崎市水源地域振興対策検討委員会を閉会した。</li> </ul>

以 上